

85 ユネスコ世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」(2021年10月28日)

2021年7月27日に「北海道・北東北の縄文遺跡群」がユネスコ世界文化遺産に登録されました。この世界遺産は、一万年以上にわたって採集・漁労・狩猟により定住した縄文時代の人々の生活と精神文化を伝える17の遺跡から構成されています。縄文時代とは、どのような時代であったかご存じでしょうか？

縄文時代とは、今から約15,000年前から約2,400年前までの期間を指します(*)。ヨーロッパで言うと、旧石器時代から共和制ローマの時代に当たります。縄文とは、縄を転がしてつけた文様のことで、縄文時代にはこのような模様がついた土器が使われていました。



今回世界遺産に登録された遺跡がある北海道、青森県、岩手県及び秋田県は、山地、丘陵、平地、低地など変化に富んだ地形があり、海や河川など水資源に恵まれています。広大な森林が広がり、豊かな漁場に囲まれた環境で、人々は食料を安定して確保して約15,000年前から定住生活を始めました。そして、一万年以上にわたって気候変動や火山噴火などによる環境の変化に適応しながら、木の実などの採種、魚介類や海藻の収穫と狩猟を基盤として生活しました。同時に、祭祀や儀礼の場を作り、先祖崇拜や自然崇拜、豊穰への祈りといった精神的な文化も築いていきました。縄文時代の遺跡群は、北東アジアにおいて農耕文化が始まる前の人類の生活の様子と精緻で複雑な文化を示すものとして、普遍的な価値があると認められました。

ギメ東洋美術館では、縄文時代の土器や土偶を見ることができます。土器が生まれたことで、食物の調理や貯蔵ができるようになりました。ギメ東洋美術館に展示されている土器は、縄文中期の紀元前約2000年頃に作られたと考えられているものです。デザイン性もあり、当時の技術の高さに驚かされます。



パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本



土偶は、しばしば女性像が見られます。専門家によると、土偶は農耕社会において農作物の豊穰を祈る人形と解釈されるものが多いですが、狩猟や採種の時代に作られた土偶は珍しいそうです。

縄文時代には、日本はまだヨーロッパとの交流はありませんでしたが、同じ時代のヨーロッパと比較しながら、縄文土器や土偶をご覧になってはいかがでしょうか。

【出典】

- * 縄文遺跡群世界遺産登録推進事務局
- ** ギメ東洋美術館